



たすけ一条 勇める処話伝之

「何かの処、たすけ一条、勇める処話を伝え。心発散すれば身の内速やか成るで。病というはすつきり無いで。めんくの心が現れるのやで。」

(明治20年9月5日山田伊八郎へおさじづ)

心発散するような勇める話とは何でしょう。

【挑戦と成長】目の前の病気や問題(人生のふし)は、親神様からのてびきやていれであり、心の成人と陽気ぐらしに導かれていること。ふしこそ心が生まれ変わるチャンス。そして必ず乗り越えられるのがふし。

【共感と連帯】私たち人間は皆、元初まり、等しく親神様から生み出された兄弟姉妹であること。魂は生き通して高低の区別はないけれども、(心)は一人ひとり皆違い、自由に使えること。あらゆる自然災害や疫病

に、私たちは自由を許された心を使い、たすけ合うことで乗り越えられること。あなたのたすかりが、私のたすかりであること。

【希望と可能性】親神様は私たち人間の親であり、子供をたすけたい一条の親心ばかりであること。たとえどんなに絶望的な状況でも、親神様があなたを見捨てることは決してないこと。それでもあなたの疑う心が親神様のたすけの糸を切ってしまう。どこまでも親神様を信じてもたれること。

【自己受容と自己信頼】親神様の守護の世界に生かされているあなたの人生の主体は、あなたの心にある。今現れて身にまつわる姿は、これまでの心遣いの結果であり、将来現れてくることは、今一瞬の心で決まる。大切なのは今、「たすけ一条の心定め」。

本島大教会布教部(隆)

